むさしオーガニック振興会

**有機農産物生産のすすめ**

有機農業に携わる前に

有機（organic）とは、「生体で生成された物質」という昔から言われている定義を引き継いでいる「生物由来」を意味する言葉です。

有機農業とは、自然界に存在するものを利用して堆肥をつくりこの堆肥を使った土をつくり、その土をもとにして、化学的に合成された肥料や農薬を使用せずに、自然の力を利用した農業です。

安心・安全なものをつくります！

有機農産物は、自然循環的で、環境負荷をできる限り少なくした栽培方法で生産されたものということです。有機農産物を摂ることのメリットは、人間の身体の全細胞、あるいは血液が生まれ変われることにあります。全細胞は3年ほどで入れ替わることができ、血液にいたっては3か月程度で入れ替わるといわれています。つまり、農薬や化学肥料、有害な食品添加物の入っていない食べ物を摂ることで、血液も体細胞も生まれ変わることができます。

有機農家の現状

有機農産物は一握りの生産者によって作られているのが現状です。空気や水、土、農業にかかわるすべての環境を守るのが有機農業です。有機農産物の購入によって守られていくようになるのです。現在、有機農産物の生産量は農産物全体の1％未満程度で、残り部分がこれから伸びていく可能性といえます。

有機農家が実践している農業は、環境への負荷が低地域環境の清浄化に繋がっています。また、国産の農産物を食べることによって、国内の生産者を支え、日本の農業を守り、自給率を上げることにつながります。安全な食物を選んで、自然環境を守りましょう。

最後に、参考資料として「資源循環型農業」について紹介します。

資源循環型農業とは

産業廃棄物の中でも食物残渣については、法的に他県への移動が認められるようになり、小売店の生ゴミなどを地方で堆肥化するなどの運動が始まっています。これら大幅な廃棄物循環は都市ゴミの減量化への一歩と評価されています。

ただし、堆肥化の中で微生物学的に、また、化学的にも適正な処理を行えるかどうかが疑問であるとともに、都市ゴミが地方の一部に集中し、そこから発生する過剰な窒素による水質汚染の可能性を危ぶむ声もあります。例えば、分別されない食物残渣中に病原性大腸菌などが含まれ、これを地方の牛糞堆肥と混ぜて発酵させた場合、これを利用した野菜を生で食べてしまう危険性もあります。一方、伝統的な日本の食品の残渣で、豆腐の粕などは、焼却するのに大量な化石燃料が必要となってしまいますが、かわりにこれを適切に発酵させ農業生産へ利用すれば、原料本来の安全性の確保がなされている上、組成が明確で水分を予測可能なため便利な資源にもなりえます。ということで今後の社会的資源循環には、工学的な手法と計画によるアプローチとともに、都市と生産地双方向のコミュニケーションが可能な、地域農業生産に対するシステム的なプログラムが重要になるでしょう。